

生涯スポーツ振興についての大阪府の取組

- 平成8年1月に「大阪府生涯スポーツ社会づくりプラン」を策定、「するスポーツ」と「見る・聞くスポーツ」の振興等を目指すべき方向として施策を推進。
多様なジャンル・種目のスポーツの提供が可能となり、生涯スポーツの振興を大きく進める。
 - ＜「スポーツ基本法」の制定(H23.8)、それに基づく国の「スポーツ基本計画」の策定(H24.3)＞
- 平成24年4月に「大阪府スポーツ推進計画」を策定……スポーツ基本法で策定(努力)義務
「大阪府生涯スポーツ社会づくりプラン」に基づいた取組を生かし、また、新たな課題に対応し、今後の大阪の生涯スポーツの振興をより一層進めるため、
「大阪スポーツ王国の創造」を目指す目標に、当面5年間(H24~28)を目標年次に、施策を総合的・計画的に推進。

イメージは①だれもが「する」「みる」「ささえる」スポーツに参加できる
 ②スポーツを通じて健康で明るく活力に満ちている
 ③スポーツを通じて都市の魅力を創造し、発信している

【取組の成果、課題】

- 学校での体育・運動部活動の充実、様々なジャンル・種目のスポーツ教室やスポーツ大会の開催、身近なところでスポーツに親しめる機会の拡充、スポーツ活動を「ささえる」人材の育成、スポーツ情報の発信等、行政、スポーツ関連団体、地域等様々な主体によるスポーツに取り組める環境の整備は進んでいる。
- トップアスリートのパフォーマンスに触れる機会の提供、プロスポーツチームと連携したスポーツの魅力発信や大阪マラソンの継続開催など、スポーツを大阪の都市魅力創造のコンテンツとして国内外に発信。
- ORWC、オリ・パラ、WMGという国際大会が平成31年から相次いで開催されるが、大阪では開催地として、あるいは「ホストタウン」として、機運醸成や大会後の「レガシー」形成に向けた取組がスタート。
- しかしながら、定量的なデータでは、働き盛りや子育て世代のスポーツ実施率は低位に止まる といった状況。
大規模スポーツイベントとして回を重ねる大阪マラソンも、世界トップレベルを目指し、さらなる魅力づくりや国際化を推進。

国における第2期スポーツ基本計画の策定(H29.3.24)

- ポイント1 **スポーツの価値**を具現化し発信。スポーツの枠を超えて異分野と積極的に連携・協働
 - **スポーツで ①「人生」が変わる！ ②「社会」を変える！ ③「世界」とつながる！ ④「未来」を創る！**
- ポイント2 数値を含む成果指標を第1期計画に比べ大幅に増加(8→20)
- ポイント3 障がい者スポーツの振興やスポーツの成長産業化等、スポーツ庁創設後の重点施策を盛り込む
- 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策
 1. スポーツを「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大、そのための人材育成・場の充実
 2. スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現
 3. 国際競技力の向上に向けた強力で持続可能な人材育成や環境整備
 4. クリーンでフェアなスポーツの推進によるスポーツの価値の向上

1 前推進計画に基づく取組の到達点、課題を踏まえる

前推進計画の目標指標の達成状況

■大阪府ではスポーツが盛んだと思う府民の割合	40.8%〔目標値 50%〕	▲未達成
■成人の週1回以上のスポーツ実施率	30.6%〔目標値 50%〕	▲未達成
■大規模スポーツイベント(大阪マラソン)の応募者数、観客数	応募者133,861名〔目標値 前年度(137,814名)以上〕 観客 133万名〔目標値 前年度(132万名)以上〕	▲未達成 ◎達成
■小学校5年生の体育授業以外での運動の実施率	男子52.6%(H25)〔目標値 60%〕 女子25.9%(H25)〔目標値 35%〕	▲未達成 ▲未達成
■府内市町村立小学校のうち、体育授業以外で継続的に体力向上の取組を行う小学校の割合	88%〔目標値 75%〕	◎達成
■大阪府障がい者スポーツ大会における参加者数	916人〔目標値 恒常的に1,000名を上回る〕	▲未達成



第2次推進計画で引き続き取り組むもの、新たに盛り込むもの

【継続】

- 学校体育や運動部活動の充実、身近な地域でのスポーツ振興、競技スポーツの振興、障がい者のスポーツ振興、人材養成などは、「する」「ささえる」スポーツの振興の根幹となる施策であり、引き続き取り組む。
- 大阪の強みであるトップスポーツチームや大規模スポーツイベント、競技大会等のスポーツ資源を都市魅力創造のコンテンツとして国内外に発信する取組は、「する」「みる」スポーツの振興だけでなく、地域活性化やスポーツツーリズムにつながるもので、引き続き取り組む。

【新規】

- 幼少期のスポーツ習慣の確立、民間事業者の「健康経営」促進、女性のスポーツ参画、スポーツによる介護予防の取組等の視点を盛り込む。
- (計画期間にRWC、オリ・パラ、WMGという、3つの国際競技大会が開催されることから)府民のスポーツへの参加意欲の一層の向上、スポーツ人材の育成、障がい者スポーツの機運の高揚等、大会後のレガシー形成の取組の推進を盛り込む。

2 大阪都市魅力創造戦略2020(H28.11 大阪府・大阪市)との整合性を配慮

大阪都市魅力創造戦略2020における『スポーツ』

○「目指すべき10の都市像」の中に「アジアをリードする国際スポーツ都市」、「健康と生きがいを創出するスポーツに親しめる都市」を盛り込む。

「アジアをリードする国際スポーツ都市」に係る施策の方向性

- ①国際的なスポーツイベントの開催
 - ・人気の高い競技大会を誘致し、トップアスリートのパフォーマンスを見る機会の提供
 - ・RWCやオリ・パラ等機運醸成イベント等の展開
 - ・市町村と連携した事前キャンプの誘致、ホストタウン登録の推進
- ②スポーツ都市大阪の魅力発信
 - ・大阪マラソンのさらなる進化発展 ・ランドマークなど大阪のブランド力を活用したスポーツイベントの誘致・開催
 - ・大阪にゆかりのあるプロスポーツチームと連携した都市魅力の発信、観光振興につなげるための取組の推進
- ③RWC、オリ・パラ、WMGの開催を契機としたレガシーの形成
 - ・オリ・パラムーブメント教育の推進 ・産学官連携によるスポーツ人材の育成

「健康と生きがいを創出するスポーツに親しめる都市」に係る施策の方向性

- ①スポーツを「する」機会、「ささえる」力の拡充
 - ・誰もが気軽にスポーツに取り組める機会の提供 ・トップアスリートの指導力等を活用した子どもたちの運動やスポーツに対する興味・関心の向上
 - ・WMGを契機とした府民のスポーツへの参加意欲の向上 ・スポーツをささえる人材の育成
- ②スポーツを通じた健康増進
 - ・身近なコミュニティにおける気軽なスポーツ実践の場の拡充 ・企業、大学等と連携した事業の展開 ・スポーツ健康医学の推進

○「世界に誇れる自慢の都市」(都市像)の「大阪ならではの魅力創出・発信」(施策の方向性)の具体策の一として「大阪が誇るスポーツ資源を活かしたスポーツツーリズムの推進」

○KPI(主指標)として「大阪にゆかりのあるプロスポーツチーム7チームの年間主催試合での観客者合計数」H27:265万3,404人→H32:360万人
「成人の週1回以上のスポーツ実施率」H27:40%→H32:50% を設定

3 国の第2期基本計画を参酌する(スポーツ基本法10条)

国が言う「3つのポイント」からアプローチ

ポイント1 「スポーツの価値を具現化し発信」……「スポーツの価値」から府の取組、現状を整理

価値1 スポーツで「人生」が変わる ～「する」「みる」「ささえる」ことで、全ての人々がスポーツに関わっていく～

- ・各地域では、市町村、民間事業者、総合型地域スポーツクラブなどが、それぞれの立場で様々なニーズに沿ったスポーツの機会を提供。
- ・学校現場で子どもの体力向上に向けた様々な取組が行われ、子どもの体力は改善傾向(全国平均を若干下回る)。高校野球や高校ラグビーでは全国的に見て高い競技力を有し、卒業後も多くの選手がトップチームや国際大会、オリンピックで活躍。
- ・在阪トップスポーツチームのアスリートが年間約150校の小学校で指導を行い、スポーツの素晴らしさを伝えている。
- ・トップスポーツチームが数多く所在し、障がい者スポーツを含めたハイレベルのパフォーマンスを「みる」機会が充実。ファンの寄付により競技場が整備されるなど、新たな「ささえる」取組もなされている。
- ・各種団体により、スポーツを「ささえる」人材の育成が進められている。
- ・新たな大阪の「祭り」となった大阪マラソンでは1万人のボランティアが参加し、大会を「ささえて」いる。

価値2 スポーツで「社会」を変える ～スポーツで社会の課題解決に貢献し、前向きで活力に満ちた日本を創る～

- ・高齢者の健康増進、生きがいつくりのスポーツとして、様々なイベントや大会が府内各地で開催。
- ・トップアスリートとの触れ合いを通じて、子どもたちにスポーツの持つ素晴らしさを伝え、夢や希望を与えている。
- ・各種スポーツ情報をHP、メルマガ等で提供。
- ・大阪府障がい者スポーツ大会が毎年約900人の参加を得て開催。
- ・様々な障がい者関係のスポーツイベントが開かれている。また、障がい者スポーツ指導員の養成も進んでいる。

価値3 スポーツで「世界」とつながる ～スポーツで世界に発信・協力し、世界の絆づくりに我が国が貢献する～

- ・知名度の高い国際大会、全国大会が開催。
- ・大阪マラソンは、大阪らしいおもてなしで国内外からの市民ランナーを迎え、楽しませている。
- ・プロスポーツや大規模スポーツイベントを大阪の都市魅力創造のコンテンツとして、国内外に発信。

価値4 スポーツで「未来」を創る ～2020年東京大会等のレガシーとして「一億総スポーツ社会」を実現する～

(前推進計画に記載はないが)

- ・東京オリンピック、パラリンピックに向けて市町村の「ホストタウン登録」「合宿誘致」を支援。
- ・RWC、オリ・パラ、WMGを好機として、オリ・パラムーブメント教育の推進、府民のスポーツへの参加意欲の一層の向上、障がい者スポーツの機運の高揚等、大会後のレガシー形成に向けた取組がスタート。

ポイント2 「成果指標を大幅に増加」

○府の前推進計画の目標指標

- ①大阪がスポーツが盛んだと思う府民の割合
- ②成人の週1回以上のスポーツ実施率 ← 第2期基本計画でも成果指標に設定(目標値:65%程度)
- ③大阪マラソンの応募者数・観客数
- ④小学5年生の週3回以上の運動(体育授業以外)実施率
- ⑤体育授業以外で体力の向上の取組を行う市町村立小学校の割合
- ⑥大阪府障がい者スポーツ大会における参加者数

○前推進計画の目標指標、**都市魅力創造戦略2020におけるKPI(重要業績評価指標)**も考慮しながら、数にこだわらず、分かりやすい指標を設定。

主指標:大阪にゆかりのあるプロスポーツチーム7チームの年間主催試合での観客者合計 H27:265万3,404人→H32:360万人

副指標:大阪マラソンの外国人参加エントリー数

RWC花園ラグビー場開催試合関連の集客数

機運醸成イベント参加者数

主指標:成人の週1回以上のスポーツ実施率 H27:40%→H32:50%

副指標:運動やスポーツをすることが好きな小中学生の割合

大阪府障がい者スポーツ大会における参加者数

大阪府登録スポーツボランティアのスポーツ大会への延べ派遣者数

ポイント3 「スポーツ庁創設後の重点施策を盛り込む」

○第2期基本計画が盛り込んだ重要施策については、大阪府においても地域の実情を踏まえて取り組む。

スポーツツーリズム

プロスポーツチームが多数所在し試合が日常的に開催される、国際的・大規模なスポーツイベントも多数開催されるといった「強み」を踏まえ、「都市型」のスポーツツーリズムを引き続き推進する。

スポーツの成長産業化

大阪にはスポーツ用品・用具の企業が数多く立地し、スポーツ関連産業の集積がある。また、プロスポーツチームやトップレベルの企業チームも多く存在する。これらの資源と「観光」、「食」、「アミューズメント」、「健康」、「文化」等他分野との連携・協働の取組を支援し、スポーツ産業・関連産業を活性化→「スポーツ参画人口」を増やす→スポーツ産業・関連産業を活性化→ の好循環を生み出す。

障がい者のスポーツ振興

府立障がい者交流促進センター(ファインプラザ大阪)を中心に、障がい者スポーツの推進に取り組んできた。この蓄積を生かしつつ、東京パラリンピックを絶好の機会として、競技スポーツとしての面からも、障がい者スポーツをより一層推進する

第2次大阪府スポーツ推進計画 骨子案

目指す目標 ～大阪スポーツ王国の創造～

理念◆ 誰もが「する」「みる」「ささえる」スポーツに参加できる都市を目指す
◆ スポーツを都市の魅力として発信し、人を呼び込む都市を目指す
◆ スポーツで人も地域も経済も活力がある都市を目指す

府民みんながスポーツに関わり、親しむ機会の創出

1 あらゆる世代でのスポーツ活動の推進

①子ども

- 幼少期でのスポーツ習慣の確立 ○学校体育の充実
- 運動部活動の充実 ※いずれも支援学校等での取組を含む

②働きざかり、子育て世代

- ワールドマスターズゲームズを契機としたスポーツへの参加意欲の増進
- 運動のきっかけづくり の取組み、親子で参加できるイベントの実施
- 民間企業における運動等を通じた従業員への健康増進の取組促進(健康経営)
- 女性のスポーツ参加への支援

③高齢者

- ねんりんピックへの選手団の派遣
- 国「ガイドライン」「スポーツプログラム」に基づく介護予防を通じた健康寿命の延伸

2 スポーツに関わる多様な人材と場の充実

- スポーツ指導者の育成 ○スポーツボランティアの育成、活用
- スポーツを支える人材の育成 ○スポーツ推進委員の資質向上
- 総合型地域スポーツクラブの質的充実 ○国等と連携して中間支援組織を整備
- 既存の施設、オープンスペース等の有効活用 ○企業・大学等と連携したスポーツの推進
- ウォールクライミング、スケートボード、BMX等の都市型スポーツの振興

3 障がい者スポーツの推進

- 支援学校と総合型地域スポーツクラブ、ファインプラザ大阪等との連携
- 大阪府障がい者スポーツ大会や体験教室の開催
- 全国障がい者スポーツ大会への選手団派遣
- 障がい者スポーツの振興等を行う団体の育成・支援
- 障がい者スポーツ指導員の養成・活用を通じた障がい者のスポーツ参加促進
- スポーツ施設等における障害者差別解消法の遵守

4 スポーツを通じた健康増進

- 身近で気軽なスポーツ実践の場の充実 ○企業、大学等と連携したイベント、教室等の実施
- スポーツ健康科学の推進

スポーツの力による都市魅力の創出

1 国際的、大規模なスポーツ大会の招致、開催

- ラグビーワールドカップ2019の開催 ○ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催支援
- 市町村と連携した事前キャンプの誘致
- ラグビーワールドカップ、オリ・パラ等機運醸成イベントの開催
- 人気の高い競技大会の誘致、オリンピック・パラリンピアン等のトップアスリートのパフォーマンスを見る機会の提供

2 ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズの開催を契機としたレガシーの形成

- オリンピック、パラリンピックムーブメント教育の推進
- 産官学連携によるスポーツ人材の育成 ○登録ボランティア組織等の維持、有効活用
- 総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、支援学校運動部等地域のスポーツ組織の活性化

3 府民に希望や元気を与える競技スポーツの推進

- トップアスリート等が府民と触れ合う機会の拡充
- トップアスリート等を活用したスポーツの普及啓発
- 顕彰事業の充実 ○国際大会、全国大会の開催支援、誘致
- 国民体育大会等への選手等の派遣 ○競技スポーツとしての障がい者スポーツの振興

4 スポーツを通じた地域・経済の活性化

- 大阪マラソンのさらなる進化発展
- 大阪のスポーツ資源を活かしたスポーツツーリズムの促進
- ランドマーク等大阪のブランド力を活用したスポーツイベントの誘致・開催
- オリ・パラホストタウン事業を通じた交流促進
- スポーツ+α、スポーツ×αによるスポーツ産業・関連産業の発展の促進

○は主な施策の例

大阪府スポーツ推進計画(H24～28)の概要

目指す目標 ～大阪スポーツ王国の創造～ 理念◆誰もが「する」「みる」「ささえる」スポーツに参加できる大阪を目指します
◆スポーツを通じて健康で明るく活力に満ちた大阪を目指します
◆スポーツを通じて都市の魅力を創造し、発信する大阪を目指します

2本の柱

ライフステージに応じたスポーツ機会の創造
市町村、スポーツ関係団体、障がい者スポーツ団体、大学、企業等とより一層連携を深めたネットワークを構築し、府民の誰もがそれぞれの体力や年齢、興味・関心に応じてスポーツを楽しむことができる生涯スポーツ社会を実現します。

スポーツの活力を活かした都市魅力の創造
トップアスリートのパフォーマンスや大規模スポーツイベントを大阪の都市魅力創造の重要なコンテンツとして捉え、強く国内外に発信します。

施策の展開

それぞれに「施策目標」「主な施策の方向性」を記載

- 1 地域スポーツクラブの活性化
- 2 学校における体育・運動部活動の充実及び学校教育と地域スポーツとの連携
- 3 働く世代におけるスポーツ機会の充実
- 4 健康増進・生きがいづくりのスポーツ推進
- 5 スポーツを「ささえる」人材の養成
- 6 「いつでも」「どこでも」「気軽に」取り組める障がい者スポーツの推進

- 1 トップアスリート等が府民とふれあう機会の充実
- 2 トップアスリートを目指すジュニア選手や競技選手の養成
- 3 大規模スポーツイベントの開催
- 4 国際大会、全国大会の招致
- 5 民間の力を活かした生涯スポーツの推進
- 6 競技スポーツとしての障がい者スポーツの振興

- 構成
1. 策定の趣旨、計画の目標年次、策定の方針
 2. 目指す目標と理念
 3. 2本の柱
 4. 2本の柱の推進方針
 5. 指標
 6. 計画の推進に当たって

スポーツを「する」ことで「楽しさ」「喜び」を得られる。これがスポーツの価値の中核である。スポーツを「みる」ことで極限を迫る姿に感動し、人生に「活力」が得られる。スポーツを「ささえる」ことで多くの人が変わり「共感」し合い、「社会の絆」が強くなっていく。

また、スポーツの価値は人にとっての価値にとどまらない。スポーツを「みる」「する」「ささえる」良き環境は都市の魅力でもあり、その品格を表すものである。

スポーツの価値は、かように広がりを持つ概念である。府民がそれぞれの「スポーツの価値」を見つけ、享受することが、豊かな未来につながるのである。